

しわ ネット

SHIWA-NET

<http://www.town.shiwa.iwate.jp/>

人と人をつなぎ地域をつなぐ広報紙



No. 775
2009

9

平成 21 年 9 月 9 日発行

岩手県●紫波町

〒028-3392 紫波町日詰字西裏 23-1

印刷・川嶋印刷株式会社



【笑顔】
紫波夏まつり(P10-11)



【行事】
佐比内と八戸の小学生交流会(P12)



虹の保育園の食育パン作り(P18)



二日町鹿踊と遠野細越獅子踊の交流演舞(P13)



【季節】
紫波フルーツパークのキバナコスモス

まちづくり座談会

みんなで創る町の総合計画

目次は23ページです

まちづくり 座談会

みんなで創る町の総合計画

町は、新しい総合計画（十年計画）を平成二十二年度に策定します。

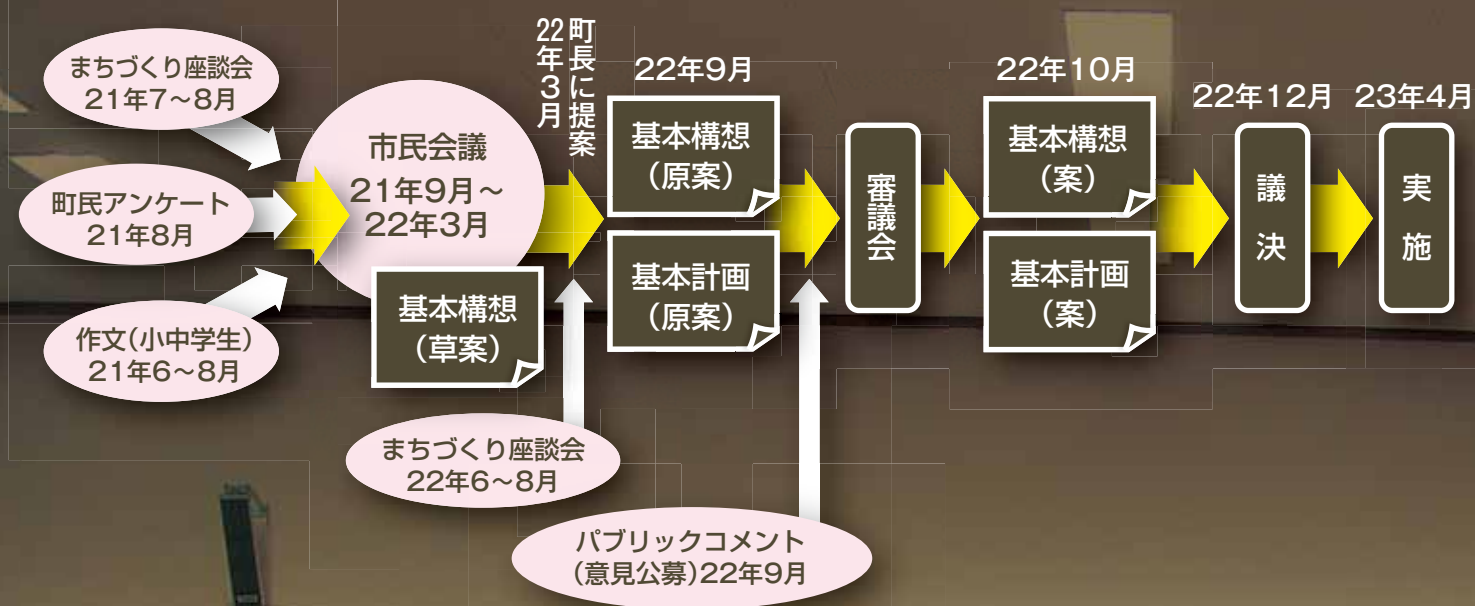
地域に根ざした計画を作り上げるため、原案をあらかじめ用意するのではなく、「市民参加」の手法により、多くの皆さんの意見を伺いながら、計画作りを進めていきます。

その一つとして、去る七月二十五日から八月十日までの期間、「まちづくり座談会」を町内十二カ所で開催し、百七十四人の皆さんから、たくさんのお意見や提言をいただきました。今月は、まちづくり座談会で出された意見や提言を、町の考えと合わせてお伝えします。

※新しい総合計画については、しわネット七月号で詳しく掲載しています。



総合計画ができるまで（イメージ図）



地域の元気を創るために、
地域の皆さんと町が協働で
取り組む活動を紹介します。

まちづくり座談会 各地区の意見を紹介



中央公民館会場

○ 皆さんからの意見・提言・質問
● 町の考え・回答

◎ 会場 中央公民館
◎ 開催日 七月二十五日(土)午前
◎ 参加者数 九人

これまでの総合計画の成果は

○新しい総合計画を策定するにあたり、これまで九年間の総括が必要では。反省点、問題点を町民に公開してほしい。(ほかの地区でも同意見有り)

● 現計画の検証をしながら、新しい計画を立てていくことはとても大事なこと。新たな目標数値、今までの検証については機会を見て、町の皆さんにお知らせする。

総合計画は専門家の考えも必要

○総合計画は、あまり具体的に計画すれば十年後、実体に合わないこともあると思う。さまざまな立場の専門家の意見を聞きながら計画してほしい。

●ほかに引けを取らないような、暮

らしやすい町づくりを進めていきたい。新しい計画についてもできるだけ多くの皆さんの意見を伺いながら、策定していきたい。

図書館に交流スペースがあればいい

○これだけ住民の願いを聞き入れる市町村はないと思う。実家は盛岡市だが紫波町に住んでよかった。子どもたちが紫波中央駅のスペースが好きで、別の高校に行った同級生と一緒に受験勉強に利用している。通学経路に無料で勉強できるスペースがあるのは貴重。新設される図書館にもそういうスペースがあればいいと思う。

●紫波中央駅前の開発は、子どもたちのため、人材育成のために、情報交流機能を備えた図書館を第一に建設し、環境を整えていきたい。

◎ 会場 古館公民館
◎ 開催日 七月二十五日(土)午後
◎ 参加者数 二十二人

水害を出さない水路計画が必要

○田んぼが宅地となり、水が溢れて水害が多いように思う。新しい総合計画では水路についても考えてほしい。

●新たな住宅地が完成したことに伴い、県に要望して、赤沼川にポンプ

を整備した。整備後の豪雨では、平成十四年度のような大きな被害はなく、ご理解をいただきたい。(過去の水害区域の対応について説明したものを。提案を受け止め、水路についても考えていきたい)

入院ベッドを確保したい

○人口に対して病院が少ないので、県と話し合いながら、入院ベッドを残してほしい。

●対応策を調べるために、県に対して一年間の猶予をお願いしていたが、一方的に入院ベッドを廃止されたので、今の状況になった。最終的にどうすればいいのか、現在、講師を依頼して勉強中なので、ご理解をいただきたい。

古館公民館の改築について知りたい

○古館公民館はいつから着工するのか、設計図ができていれば見せてほしい。また、コミュニティーセンターも兼ね備えると聞くと管理は役場で行うのか。

●業者からの提案を受けている状態で、図面はできていない。平成二十一年度内の完成を予定。大きな変更はできないにしても、レイアウトなど、地域の要望を聞くことを予定している。二階にはこどもの家を移設する計画。

共同墓地が必要では

○共同墓地造成を今回の計画で考えてほしい

●共同墓地は必要と考えているので、検討する。

◎会場 長岡公民館

◎開催日 七月二十七日(月)夜

◎参加者数 十五人

小学校の統廃合について

○小学校は児童数に応じて教職員数が決まってくるため、児童数が減れば複式学級という形を取らざるを得ないと思う。統廃合しないのか。

●現在、彦部小学校に複式学級があり、平成二十二年以降は東部と西部で複式学級が増加すると予想している。二つの学年を合わせて十六人を下回る場合に複式となるが、通常一クラスに一人の教員が配置される。彦部小学校の場合は、県から講師が派遣され、二人体制となっている。今後、複式学級が増加した場合も同様の対応をしたい。また、小学校はその地区のコミュニティの核となる施設。災害時の避難場所にもなっているため、統廃合は必要ないと判断しているが、皆さんの意見を聞きながら検討を続ける。

小学校は複式学級より統合するべき

○六十数年前、遠山分校で複式学級を経験した。下級生の面倒を見ながらの授業は、集中できず非常に苦勞をした。また、スポーツ少年団の活動は、まとまった人数が必要。東部地区四小学校の統合を考えていくべきだと思う。

●難しい問題なので、皆さんからさまざまな機会に意見をいただいて、みんなで検討していきたい。

地区創造会議の内容は反映されるか

○地区創造会議で出された「長岡ゆめプラン」は、どの程度、総合計画に生かされるのか。

●地域でできない部分は、町でどのような形で援助できるのかつめていくことが重要。地区創造会議で出た内容は、今回の基本構想よりも、次の段階の基本計画で反映させていくことになる。ただし、市民会議などで、もっと早い段階で反映すべきという意見が出れば、早い段階から検討することになる。

◎会場 佐比内公民館

◎開催日 七月二十八日(火)夜

◎参加者数 十九人

高齢者福祉と在宅医療に対する支援は

○子育てや高齢者介護は先を見越して攻めの姿勢が大切。終末期医療の

問題もできるだけ早い対応が必要。施設だけ造ることが大切ではなく、在宅医療のサポートなども必要。

●町内で施設を充実できるように医者を見つけないといけない。デイサービスやショートステイ、ホームヘルパーを利用する在宅介護、そして在宅医療も大切。にいやま荘のベッドの増床についても考えている。

松食い虫対策の現状は

○松食い虫対策は何年か前までは一生懸命やっていたと思うが、現在はどっとなっているか。



長岡公民館会場

●二千万円の県予算で、最重点箇所として徹底駆除を考えている。今は現場検証の最中。今後秋にかけて大々的に駆除する予定。

ホテルが住む川を整備していいものか

○集中豪雨などの災害が起こる前に、農地水環境補助事業の制度を利用して、ボランティアで河川の柳を切った。川の中のヨシも切りたいが、蛍の観察場所のため、切つていいか悩んでいる。

●既に河川改修は十年前くらいに済んでいるが、平成十九年度に土砂の堆積により決壊寸前だった状況を踏まえ、彦部川と姉市川の整備を県に要望している。県は、何らかの対応をしてくれる予定。ホテルは初めて知ったので、保護しながらの対応ができるか、地域の意見も聴きながら考えていく。

◎会場 彦部公民館

◎開催日 七月二十九日(水)夜

◎出席者数 九人

東部地区にも老人ホームが欲しい

○東部地区に老人ホームがない。一カ所ぐらいあるべき。高齢者が引きこもりがち、みんなで支え合う必要がある。

●一人暮らしの高齢者には、連絡網

を構築し、保健師が定期訪問してリストアップするなど、緊急事態で苦慮することは無くすように頑張っている。介護関連施設は、介護保険事業計画によってバランスよく配分するようにしている。施策の前に、なるべくみんなが助け合うことで、高齢者にも社会参加を続けてほしい。

バスの便数を増やして欲しい

○年を取ると車の運転ができなくなり、通院しようにもバスの便数が少ない。前もって手を打っていくことが大事。お金はかかるが長期計画に入れてほしい。

●県交通の乗り合いバスが廃止され、町のすこやか号も需要に応じかねている状況。十分に検証を行って対応していきたい。

農業の活性化対策が必要では

○産業の活性化が大事。特に東部地区は農業が基幹産業、もう少し何とかならないものか。せつかくの十年計画、どこを重点的に育てていくのか目標を設定し、それを達成することで、不満を解消できるような計画を立ててほしい。

●町の基幹産業は農業。一次、二次、三次産業がつながった独自産業を考えていきたい。えこ3センターで作った堆肥を使用して、町の農産

物のブランド化の確立を図り、農家の所得向上を図りたい。

紫波町は農村部と都市型がうまく融合した町。東部地区は農村部をどう生かすか、中央地区は都市型をどう融合させていくか、地域の特徴を生かして総合計画に盛り込みたい。地区それぞれに根ざした文化に光をあてていきたいと考えている。

◎会場 赤石公民館

◎開催日 八月一日(土)午前

◎参加者数 三十三人

商店街と大型店は共存できないか

○日詰商店街は道路を整備し「歩きやすくなった」との声を聞く。しかし、シャッターを下ろしている店が年々増える一方、大型店が町内に五店もある状況。競合、競争ではなく共存できないか。

●日詰商店街の活性化は、定住人口と交流人口を増やすことが課題であり、定住人口は、住宅の整備などによって増やしたいと考えている。交流人口は、商店数が減り、消費者の選択肢も減っていくため、自ら経営できない商店の店舗は、貸し出すことも一つの手段だが進んでいない。数年前に策定した日詰商店街の活性化計画を、本年度中に検証しながら進めていきたい。

伝統文化を守る施設が必要では

○人が知識、教養を高めていくには伝統文化を守り、後世に伝えていく施設が必要。そのような構想はあるか。

●無形文化財を伝えることは、情報交流プラザで対応できると考えるが、有形文化財については次期総合計画の中で考えていきたい。図書館は本だけでなく視聴覚展示も考えている。矢巾町の田園ホールは利用できるが、美術館、音楽ホールは現状では予算上難しい。むしろ既存施設の補修、維持を考えたい。

◎会場 赤沢公民館

◎開催日 八月二日(日)午後

◎参加者数 十人

農業収入の向上と雇用確保が課題

○赤沢として、若者が行き交う町を考えていきたい。そのために、農業の収入があること、雇用の場、働いて楽しめることが必要。

●若者が定着するような町づくりについては、農業で定着できなければならぬと考えている。赤沢では年々ワインの質も向上しており、将来は六〇七万本を生産販売し、所得向上につなげたい。若者が醸造にも携われるようにしたいと考えており、来年、ワイナリーの職員をオー



赤沢公民館会場

ストラリアに派遣する予定。ワイン文化や醸造技術を取得させ充実させていきたい。

紫波川井線の整備が必要では

○紫波川井線(県道25号)は冬期間閉鎖になってしまいが、町と沿岸との交流のために整備が必要ではないか。

●長年、県に要望し、だいぶ整備は進んでいるが、歩道などがまだ十分ではない。冬期間の通行についても、引続き要望していく。

◎会場 農協志和支所

◎開催日 八月六日(木)夜

◎参加者数 八人

役場に消防分団を設置できないか

○消防団員が減少し高齢化が進んでいる。その多くが会社員。ある自治体では役場に分団を作り、有事の時に対応していると聞く。紫波町役場にも一つの分団を作れないか。

●役場は災害時に対策本部を設置すると、その機能を動かすことで目いっぱいになる。分団ではないが、自衛消防隊があるので、職場で何か起きた場合の訓練は大切だと思う。ご意見として伺っておく。

空きベッドを介護用に活用できないか

○志和地区は最も高齢化率が高く、介護を要する人もたくさんいると思う。県立紫波地域診療センターの空きベッドを活用した介護施設を町が行うことは考えられないか。

●空きベッドの活用については、具体的な方向性は見いだされていない。町の皆さんから伺うと、「入院ベッドが十でもいいので欲しい」という意見が多数であり、現在、意見集約しているところ。

空き地を整備し企業誘致しては

○雇用の確保が問題になっている。インター周辺に空き地が多くあるので、再整備を行い、働く場、企業誘致を図るといいのではないか。



上平沢小学校会場

●盛岡広域市町村長懇談会の企業誘致部会という組織で、誘致活動を行っているが、本年度は八市町村出身の起業家や在京の企業人を集めた産業人会を設立する準備を進めている。企業誘致関連の情報交換を行いながら積極的に働きかけを行う準備で、長い目で見ていかなければならないと思っている。

コミュニティFMは怎么样了

○昨年行われたコミュニティFMは将来的に設置する方向なのか。災害時などの情報伝達手段を作っていないか。

●最近携帯電話のエリアメールなど、さまざまな情報伝達手段が確立

されているので、その方向性を検討している。コミュニティFM局を町が運営することはできないため、すぐに導入することは難しい。母体となる民間の団体があればそれを支援する考え。

◎会場 水分公民館

◎開催日 八月七日(金)夜

◎参加者数 十六人

家族離れる若者に対策が必要では

○紫波町に限らずこの市町村でも若者や子どもが少なく高齢者ばかり。昔のように家族が一致団結して仕事も頑張る、だらんもある、そういう形にもっていくのが楽しい町づくり。社会教育や公民館活動が必要では。

●三世代家族が一番いいとは思いますが、世の中が変わってきている。核家族化が進んでおり、地域全体で少ない子どもたちを守っていかなければならないと思っている。

地域の良さを大事にしたい

○新しい総合計画を策定する前に、地区創造会議が開ける体制を作りたい。蜂神社や、須川長之助、藤原嘉藤治など、すばらしい功績を残した方々、産直など色々な素材がある。そういったものを大事にして地域づ

くりをしていきたい。

●地域の歴史と文化を残し、伝えていくことが、地区創造会議の中で出てくる課題であろうと思っている。そういう点を期待しながら、地域の発展につなげてまいりたい。

◎会場 上平沢小学校

◎開催日 八月八日(土)午前

◎参加者数 五人

地域にお店が無くなった

○馬場のまちに魚や野菜などを買えるお店がなくなってしまう、これからどうやって生活したらよいのか。日詰などに引っ越したらいいのかも考えた。生きていくために近所の人に乗せてもらって日詰に買い物に行っているが、一週間に一回でも売りに来てくれるような方法はないか。

●行政でなかなかできない部分だが、絶対に必要なこと。せっかくの上平沢商店街、必要と考える人が商売してもらえないかと思う。

高齢者が引きこもるのが心配

○店がないと高齢者が家に閉じこもって出てこなくなる。デイサービスはお金がかかるし、コミュニケーションを取れないのが心配。

●志和地区は佐比内と並んで高齢化

率三〇%超と高い状況。安否確認をしながら販売をする仕事をしてくれ
る人がないものだろうか。

●地域として店がないことは問題。

●店に行くための巡回バスのような
足を確保することも必要かもしれない。

●朝市や軽トラック市なども考えら
れる。

●どのくらい希望する人がいるか調
べていないので、そこから対応し
なければならぬ。日詰でも大型
ショッピングセンターに押されて同
じような問題がある。何らかの対応
をしなければならぬと感じた。試
験的にでもやりながらエリアを増や
していくことが必要と考える。

若者は会社をすぐに辞める

○会社を経営しているが、若い人を
雇って、せっかく仕事を教えても、
意欲がないとすぐに退職してしま
う。その点、家庭持ちは違うようだ。

●雇用確保よりも、町外にはたくさ
んの企業があるので、紫波中央駅前
に優良住宅地を整備して働き盛りの
住民を受け入れた方が良く考えて
いる。法人町民税による歳入はここ
数年、一億円余りで推移している。
伸びているのは個人所得税。大きな
企業は誘致しようとするただで用
地を十鈔ほしいなどと要望してくる

が、何十億円の出費となる。小さい
企業でもインフラ整備をしてもなか
な来ない。その一方で景気が悪く
なれば撤退する。今は職と住を広い
エリアで考えていかなければならな
いと思う。

◎会場 星山小学校

◎開催日 八月八日(土)午後

◎参加者数 十四人

環境教育を継続してほしい

○環境教育をするようになり、環境
がよくなってきたのを実感してい
る。悪くしてきたのは今の大人社会
だが、これから守っていくのは若い
世代。環境への取り組みを行って
くれているおかげで、逆に大人が子ど
もたちに教わることも多いと感じて
いる。引き続き、取り組んでいって
ほしいと思う。

●町は環境について学ぶ場として、
四年前から環境マイスター養成講座
というものを行っている。昨年度ま
でに六十四人を認定。その人たちが
各地区に出向き、環境活動を行って
いる。それぞれ皆さんが環境に対す
る意識を持って生活していくことが
大切。

大きな歩道橋で人の流れをつくる

○公共機関を利用して町を散策する

という意味で、バスの終着駅が日詰
商店街にあればいい。国道四号に仙
台のように大きな横断歩道橋を作
り、商店街に続く賑わいの場にすれ
ば、人の流れができるのではないかと。

●日詰商店街については、公民連携
基本計画として、民間からの提案も
受けながら、街中の町有地を活用す
ることを考えていきたい。紫波中央
駅前にフットボールセンターができ
ると、年間五万人以上の交流人口が
見込めるので、そういった人たちが
日詰商店街まで足を延ばしたとき、
また来てみたいと思ってもらえる場
にすることが、これからの開発で大
切なこと。町の皆さんにも、ここに
立ち寄りたいと思うようなものを作
ることが、今回の基本計画の柱なの
で、ご理解いただきたい。

一輪車の全国大会を開催したい

○紫波町は自転車の町なので子ども
たちの一輪車の全国大会を開催した
い。子どもを呼び込めば親も来るの
で倍以上の人が来る。中学校や小学
校の自転車大会もいい。紫波町を自
転車の町としてもっと売り込んで
いいのでは。

●一輪車は星山小学校を中心に全国
レベルなのでいいアイデア。これか
ら検討していきたい。

◎会場 保健センター

◎開催日 八月十日(月)夜

◎参加者数 十四人

農業振興と産業振興は両立可能か

○平成十年の計画では、優良農地を
確保しつつ、産業振興(企業誘致)
を図るという案が出されたが、どう
やって優良農地確保と産業振興の両
立ができるのか。町はほぼ全域が農
業振興地域なので、いくら工場を建
てたいという要望があっても建てら
れない。どう調整していくつもりな
のか。

●農業振興地域については、五年に
一回、見直しをかけている。その時々
で計画どおりにいかない場合は、途
中で農業振興農用地区域除外地申請
が出てくる。既存企業にがんばって
もらい、関連企業に来てもらいたい
が難しい。もし何らかの企業が来て
くれるのであれば、一等農地以外は
転用することも考えたい。

企業誘致については、総合計画に
もあり、取り組みを進めている。現
在の工業団地に未整備だが土地はあ
る。いろいろなやり方があると思う
が、先行投資をして、商品化したも
のを売り込むか、要望が来てからそ
れにそって改良するかいろいろある
と思う。ほかの自治体では整備した
工業団地が思うように埋まっていな

いようだ。業種によっては水を大量に使い、煙を出すなど、企業誘致といっても何でもいいわけではない。また、景気の急速な悪化に伴い企業誘致も最悪の状況。町にある産業を育て、地場産業をつくるのが理想だが、簡単にはいかない。新しい総合計画を作る上で皆さんの意見を多くいただきたい。

雇用対策について

○若者を引きつけるための雇用対策はあるか

●主要企業の会社を訪問して要望や意見をいただいた。就業については、まったく募集がないわけではないが、希望者がいない。町の若い人たちの希望する職種と、実際の仕事のミスマッチもあり、うまく回転していない。若い人たちが集まり勤める場が必要なので、紫波中央駅前の計画も、新しい雇用の場を増えるきっかけにならないかと期待をしている。次期計画はより皆さんの意見を取り入れられるような仕組みを検討していきたい。

医療問題の具体策は

○医療問題も県立病院の問題など、具体的に示してもらわないと不安が募る。

●地域医療については、関係者と町

民を含めて一回目の懇談会を開催。地域医療に取り組んでいる町の見学会や講演会を企画し、町の皆さんと一緒に考えていきたい。県立病院があることで県立病院に頼っていた部分があるので、地域医療という分野に今後は取り組んでいきたい。

跨線橋を撤去してもいいのでは

○紫波総合高校東側の歩行者用跨線橋の塗装がはがれ見た目が悪い。塗装して欲しいが、利用者が非常に少なく防犯上の心配もあるため、撤去してもいいのでは。

●具体的計画はないが、年数が経過し耐震強度が心配。補強には多額の費用もかかるため、撤去も視野に入れないながら、利用状況を調べ、皆さんの意見を聞いて対応を考えたい。

日詰のケヤキ並木を間引きできないか

○最初のころに植えられたケヤキ並木（日詰9区）について、毎年枝打ちをしてもらっているが、歩道の部分に根が張り出し、マンホールが正常じゃなくなっている。民家の畑にも根が入り込んで非常に困っている。一本おきくらいで伐採できないものか。

●「環境に寄与する木なので切るべきではない」という意見と「切ったほうがいい」という意見があり、環

境面からも困っているのが実態。相当な量の葉が落ち、近所の皆さんが苦勞しているのも聞いている。どちらにしても結論を出していくように努めるので待つてほしい。

座談会の内容を公表して欲しい

○まちづくり座談会は地区によっていろいろな話題があがっていると思うが、情報公開はされるのか。出された意見や、それがどのように反映されるのかを

町民が分かるようなものがあれば、さらに総合計画がよくなるのではないか。

●まずは広報で主な内容を紹介させていただくが、ページに限りがあるので、それぞれの地区の話題をいくつか載せることになる。記録はすべてとっているの、ホームページに載せるなどして、できるだけ情報公開したい。

今回、皆さんからいただいたご意見を踏まえ、これまで九年間実施してきました現在の総合計画の達成状況を、しわネット十月号から連載でお伝えしてまいります。

また、平成二十一年度まちづくり座談会の会議録を役場のホームページで公表します。どうぞご覧ください。



星山小学校会場

紫波夏まつり すてきな夏を ありがとう

第三十八回紫波夏まつり（同実行委員会主催）が、八月九日に紫波運動公園で開催されました。厚い雲に覆われたあいにくの天候の中、午後二時に屋台村がオープンし、自由ステージでは三味線やダンス、一輪車、ジャズ演奏などが披露されました。その後、雨が降り出し、まつりの継続が心配されましたが、みこしやSTGMのライブで会場は活気づき、中止することなく続けられました。盆踊りの時間は短縮されましたが、関係者の熱意と努力もあり、花火大会では、予定どおり四千発が打ち上げられました。

来場者は昨年より少ない約七千人。それを迎えたスタッフは、五十六人全員が公募で集まったボランティアでした。約半年前から打合せをして企画し、当日は会場の飾り付けや運営、そして、雨対策に追われる姿がありました。長期間にわたりお疲れさまでした。





interview



ボランティアスタッフ
黒澤優梨さん(左)と金子瑞姫さん(右)
(紫波総合高校2年生)

「何かを作り上げたいという気持ちがあったので、夏まつりボランティアはいい機会だと思って、二人で応募しました」



ページシステム



ボランティア活動をするポイントがもらえるページシステム。夏まつりスタッフにもポイントが発行されました。



interview

ボランティアスタッフ
高橋久夫さん(北日詰在住)

「ステージの飾り付けや運営を担当しています。盆踊りの練習会で講師を務め、本番ではいつもやぐらの上で踊っています。ボランティアスタッフは2003年から参加していますが、いろいろな年代の人たちと友達になれますし、終わったときの達成感が魅力です」

梅雨明け宣言のない今年の夏
象徴するような雨空で閉幕した夏まつり
舞台裏では町民スタッフが頑張っていました



interview

ボランティアスタッフ代表
阿部昌利さん(二日町在住)

「今年は高校生20人を含む58人のスタッフに、自由な発想で頑張ってもらいました。半年かけて準備してきましたが、本当に助かり感謝しています。途中から雨の中での開催となりましたが、盆踊り大会の参加者をはじめ、多くの皆さんにご来場いただき、ありがとうございました」



佐比内と八戸の小学生が交流



八戸市内48校の小学6年生48人が、7月29日に町を訪れ、佐比内小学校の4年生以上の児童30人と、太鼓やそば打ち体験などを通じて交流しました。八戸藩ゆかりの地とされる佐比内地区と八戸市の児童が交流を通じ、南部藩の歴史を学びながら郷土愛をはぐくむことを目的に行われました。佐比内小学校6年生、佐々木彩花さんは「何百年も前につながりを持っていて今でも交流していることはすごいことだと思います」と語り、八戸市立下長小学校6年生木下さくらさんは「そば打ち体験ですっかり仲良くなれました。せっかく友達になれたので、これからもお話する機会があればいいと思います」と笑顔で話していました。

※1617年、三戸南部（盛岡南部）氏によって接收された八戸南部（根城南部）氏は、1627年に遠野へ移され遠野南部氏となった。当時の佐比内村は八戸弥次郎（遠野南部氏）の所領であったため、上佐比内が遠野領、下佐比内が盛岡領と二分された。上、下と佐比内は分断された時代は継続したが、いずれも遠野南部氏ゆかりの地として明治維新まで続いた。

紫波の夏

出した、それぞれの交流活動の様子を紹介します。



國學院大学の学生サークル「森木会」のメンバーと卒業生や教師39人が、8月1日から2日間、彦部地区を訪れ、間伐体験を通じて交流を深めました。NPO法人紫波みらい研

究所が仲介し、地元農家にホームステイをしながら交流するこの事業は6年目を迎え、毎年さまざまな感動を学生たちに与えています。この事業を通じ卒業生など3人が町にIターンしたのは6月号でお伝えしたとおりです。森木会会長の4年生箱崎かをさんは「自分の田舎のように毎年訪れています。山の中での労働は気持ちよく、毎年温かく受け入れてもらい感謝しています」と語っていました。



古殿町・紫波町青少年スポーツ交流会

多目的スポーツ施設サン・ビレッジ紫波で8月4日、姉妹都市として友好関係にある福島県古殿町の小学校4校の児童16人と、水分、上平沢、片寄の各小学校の児童20人による交流会が行われました。古殿町立田口小学校4年生の矢内夏恵さんは「紫波町は田んぼが多いと思いました。みんなとテニスができて楽しかった」と話していました。古殿町の児童たちはラ・フランス温泉館に宿泊し、ブルーベリー狩りやピザ作りを楽しんで帰りました。

二日町鹿踊と遠野細越獅子踊が交流演舞

古館地区の走湯神社で8月9日、約100人の見物客が見守る中、紫波町と遠野市の二つの「しし踊り」が舞を披露し交流しました。この催しは、二日町鹿踊保存会が遠野細越獅子踊保存会を招いて、郷土芸能の継承と交流を目的に行われました。二日町の阿部信夫会長は「昨年の遠野まつりで初めて踊りを見たとき、激しい踊りにもかかわらず衣装が乱れていないことに気づき、冬に『かしら』の結び方やわらじの作り方を教わりに行き、遠野で公演する機会もいただきました」と語り、遠野の瀧澤征幸会長は「どちらも400年以上の歴史がありますが、交流を通じ双方の違いの良さを見て感じてほしいです」と語っていました。



出合いがいっぱい！

この夏、紫波を会場に、さまざまな交流活動が行われました。姉妹都市、歴史文化、郷土芸能が生み

今年もやってきた國學院大の学生たち 彦部で間伐作業を通じた交流



こども夏エコ祭で 楽しく環境学習



環の紫波 くにしわ

子どものころから、環境について関心を持ってもらおうと、町は八月八日に「第四回こども夏エコ祭」を開催しました。

今年は会場をショッピングセンターナックスに移し、店内六カ所に環境学習コーナーを設け、各コーナーのスタンプを集めると「夏エコ博士認定証」がもらえるスタンプラリーを行いました。

各コーナーの運営には、NPO法人紫波みらい研究所、環境マイスター紫波、ごみ減量女性会議、観光ボランティアしゃ・べーる、紫波レクリエーション協会、環境学習交流センターに協力をいただきました。

メダカやザリガニなどの水中生物を観察できる特設のビオトープには、水中生物を探す子どもたちが集まり、「チャリンコ発電」は、自転

車をこぐと発電してテレビ画面が表示され、町内



ニュースポーツのユニカール



火を使わない豆銀糖作り

をサイクリングしているような映像が映し出される優れたもの。日詰商店街をスタートしてゴールの長徳橋に到着するころにはみんな汗びっしょりで、発電するためにかかるエネルギーを体感していました。

ほかに、古新聞を使ったエコバッグや、コネコネマイ石けん、マイバッグなどの手作り体験や、^(注1)サイカチ洗剤・天然消臭剤の作り方講習、ふろしき包み方教室、お楽しみとして、豆銀糖作り、紙芝居、バルーンアート、ニュースポーツ体験、また、環境学習広報車「エコカーゴ」の展示など、盛りだくさんの内容で、大人も子どもも楽しみながら環境について学んでいました。

参加した子どもたちからは「自転車で発電できて面白かった」「エコバッグや石けん作りが楽しかった」「豆銀糖作りが楽しかった」「ニュースポーツが楽しかった」という感想がたくさん寄せられました。

使っていますか？マイバッグ レジ袋減らし隊！

「レジ袋減らし隊」は、買い物の際にレジ袋を断ることでごみの減量とCO₂の排出削減を図る町の皆さんと事業者が参加するレジ袋削減運動です。レジ袋は石油からできていることをご存じですか。一枚七グラムのレジ袋を作るために、原料として七グラム、エネルギーとして七グラム、合わせて十四グラムの石油が使われます。これは六十ワットの電球を一時間点けていられる量と同じです。また、レジ袋の製造から廃棄までに排出されるCO₂の量は約六十グラムといわれています。買い物にはマイバッグやマイバスケットを使って、なるべくレジ袋を断りましょう。

レジ袋減らし隊応募状況（四～六月分）

応募数 一、〇六八件

レジ袋削減枚数 ^(注2) 三七、一六六枚

「紫波町金融団」が 公園をピカピカに

「紫波まちピカ応援プログラム覚書取り交わしおよび認定証交付式」が八月二十八日、役場第一会議室で行われ、町内に支店を置く四つの金融機関で組織する「紫波町金融団」に認定証が交付されました。同金融団は、日詰商店街の東北銀行紫波支店斜め向かいにある「日詰ふれあい広場」の清掃活動などを、冬期間を除く毎月一回実施する予定です。

(注1) サイカチとは、マメ科の落葉高木樹。実には洗浄成分があり、洗剤として使用し、排水をそのまま川に流しても環境への負担が少ない。

(注2) 応募数1068件×スタンプ押印数20個×買い物1回に使うレジ袋枚数1.74

二百十日に思う

古来より二百十日と二十日は、厄日とされています。立春から数えて二百十日は九月一日前後なので、台風が来襲することが多い時期といわれています。

現在では、九月一日は防災の日であり、同時に関東大震災記念日でもあります。今年はその日に、台風十一号が岩手県沖に最も接近したことを知り、ことわざも的中した九月一日だと感じたところです。

当町では、八月二十三日に長岡小学校周辺を会場として、総合防災訓練を実施しました。



チャリンコ発電、町内一周完走を目指して張り切る子どもたち



紙芝居、ワクワクしながら何度も聞いたよ



子どもたちに人気だったマイバッグ作り



丈夫な古新聞のエコバッグ。関心が高く参加者が絶えませんでした

好天に恵まれ、町内外から三十二団体、地域の皆さんを合わせて総勢六百五十人の協力を得ての訓練でした。震度六弱の地震が発生したことを想定した全六十八項目の訓練には、地域の皆さんにも真剣に取り組んでいたばかり、あらためて防災は官民協力の必要性があると認識した行事でありました。この総合防災訓練は、毎年場所を変えながら、年々内容を充実しているものであります。

今回の訓練で考えさせられたことは、現在の住宅建設では、電気設備にすべての機能が

※紫波まちピカ応援プログラム
町は、良好な景観の保全と創造を目的に、道路や公園などを対象区域として「アダプト・プログラム（里親制度）」を導入し、「紫波まちピカ応援プログラム」という名称で平成十六年一月に制度を設けました。今回で六団体目の認定となります。町ではボランティア活動保険への加入や清掃活動に使用する道具の貸し出しをしています。



認定証を手にする左から盛岡信用金庫紫波支店西海枝貢支店長、北日本銀行紫波支店石田勝義支店長、東北銀行紫波支店及川信也支店長、岩手銀行紫波支店加藤伸弘支店長、藤原町長

「新型インフルエンザ」緊急告知！

紫波町新型インフルエンザ対策警戒本部長(町長)コメント

国は、8月19日、国立感染症研究所の調査結果を踏まえて「本格的流行が既に始まっている可能性がある」との見解を示しました。現在流行中の新型インフルエンザは、通常の季節性インフルエンザと同程度の病原性(毒性)で、タミフルなどの治療効果は高いといわれています。しかし、ほとんどの人が免疫をもっていないため、極めて伝染性は高いといわれています。

今後、町内においても感染が拡大することが予想されますので、町民の皆様におかれましては、次の点に注意しながら、一層健康管理や感染拡大防止に努めていただくようお願いいたします。

- ① 感染予防対策の基本である**手洗い・うがい**を徹底しましょう。
- ② インフルエンザのような症状(発熱、咳、のどの痛みなど)がある場合は、無理をせず学校や仕事を休み、症状に応じて自宅療養や医療機関を受診しましょう。
- ③ 新型インフルエンザの診療は、8月17日から原則すべての医療機関で受診できる体制をとっています。

町は、医療機関の受診や在宅療養を行う上での注意点をまとめたリーフレットを8月末の班回覧で配布しています。参考にし適切な受診や療養に努めてください。なお、受診に当たっては、あらかじめ**医療機関に電話やFAXで受診方法などを相談**するとともに、マスクの着用を心がけましょう。

④ 喘息、心疾患、腎疾患、糖尿病などの基礎疾患のある人や、乳幼児、妊婦、高齢者などは、時に重症化することがあるといわれています。発熱やのどの痛みなどの症状が出た場合の対応について、かかりつけ医と日ごろから相談しておきましょう。

⑤ インフルエンザは、症状がでた日から8日目、または解熱など症状が改善して2日目まではほかの人に感染させる可能性がありますので、自宅療養しましょう。

⑥ 国や町からの正しい情報に基づいた、冷静かつ油断のない対応をしましょう。

◆ 問合せ 長寿健康課 健康推進室
☎ (672) 4522

町の栄養士がお伝えします 健康レシピ

[レシピ提供/紫波町食生活改善推進員協議会 水分地区会員 藤原綾子]

藤原です。玉ネギとニンジンバターで炒めるとコクがでます。季節によって食材を変えてみてください！



今月は...

トウモロコシと枝豆のコロッケ

採れたてのジャガイモ、トウモロコシ、枝豆を使った、旬の味がいつばいのコロッケです。枝豆は良質のたんぱく質のほか、大豆にはないビタミンを含んでいます。また、トウモロコシには、食物繊維が豊富で、腸をきれいにしてくれる働きがあります。

【作り方】

- ① 枝豆とトウモロコシを塩ゆでし、枝豆は実を取り出し、トウモロコシは実をそぎ落としておきます。
- ② 玉ネギはみじん切り、ニンジンはいりおろし、バターで炒めておきます。
- ③ ジャガイモは皮をむき、お湯で20分くらいゆで、やわらかくなったら熱いうちにつぶします。
- ④ ③に枝豆、トウモロコシ、玉ネギ、ニンジンを入れ、塩・こしょうで味を調えます。
- ⑤ 小判型か俵型にまともめ、小麦粉、卵、パン粉の順番に衣をつけて180度の油で揚げます。きつね色になったら出来上がりです。

【材料(4人分)】

ゆでた枝豆の実...40g、ゆでたトウモロコシ...40g、ジャガイモ...500g、玉ネギ...50g、ニンジン...100g、塩・こしょう...少々、小麦粉...適量、卵...1個、パン粉...適量、油...適量、バター...適量

ラザニアの作り方を説明する小野寺恵先生(右)



恵みとメグミの 出前キッチン

食育講座



町の食育事業として、小野寺恵パ
ン洋菓子教室の小野寺恵代表を講師
に招き、町内産の旬の食材を使った
料理教室を、紫波フルーツパーク体
験工房において、全五回の日程で開
催中です。

八月二十日には、二回目の教室が
開催され、町内外から二十一人が受
講し、トマトを使ったラザニアと
ジャガイモのニョッキを作りました。
小野寺先生は「紫波町は食材が
豊富なので、たくさんの方の加工技術
を知られば料理の幅も広がり長期保存も
できます」と話していました。受講
者の菊池みどりさん(佐比内)は「手
軽な地元食材を使った料理はワンパ
ターンになりがちですが、普段と
違った料理を作るのがこの講座の
魅力です」と話していました。

次回以降の教室は、九月十七日
「ぶどうのタルト」、十月十五日「ま
るごとりんごのパイ」、十二月三日
「ラ・フランスのタルト」の予定です。
参加料は各回三千二百五十円。受講
を希望する人は、事前にお申し込み
の上お出かけください。(定員二十
人)

◆申込・問合せ

農林課食育担当

☎(672)2111

内線3312

岩手県公安委員会指定

紫波中央自動車学校



☎0120-219-196

〒028-3304 紫波町二日町字西七久保66-1

☎672-4316 FAX 672-4355

URL <http://www.shiwachu.jp>

10月からスタート

早期入校割引

学生さんは入学金より1万円割引

青春が
よみがえる
遠近両用メガネ

体験セット

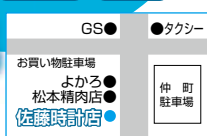
18,800円

レンズ+フレーム+ケース付

眼鏡屋 目明かし堂

(有)サトウ時計店

日語バス停前 ☎676-2838 <http://www.meakashi.com>



秋の新入会キャンペーン実施中

この秋大人向け新コース開講!
日常生活や旅行で使えるフレーズが身に付きます

2009年10月31日まで

特典1 入会金

15,750円(税込)

無料!

特典2 キャンペーン中にご入会の方

レッスン費4回分

無料!

特典3 9月中にご入会の方

英語教材絵本

プレゼント!

優秀な外国人講師による英会話

1歳半から大人まで学べる

プリンス
英米学院

盛岡南校

矢巾交番
斜め向かい

019-697-2220

紫波郡矢巾町
又兵衛新田7-209-1F

プリンス英米学院盛岡 検索 <http://www.mmjp.or.jp/peg/>

お電話にて
ご予約下さい 無料体験レッスン実施中

安定した農業経営めざす家族の協定

家族経営協定調印式が総合体育館の研修室で行われ、新たに十組の家族が協定を結びました。この協定は家族全員が意欲を持って農業に従事できるように、家族間で経営方針や役割分担を話し合い取り決めるもの。すでに県内一千百九十七組、町内五十組が締結しています。農業委員会の浦田輝夫会長は調印式で「農家は営農と生活の区別があいまいでしたが、協定により安定した生活を営むことができます」と話していました。



7/28

参加した家族は協定書に一人ずつ署名しました



手作りの廃油キャンドルに火をともし児童たち

8/3

紫波中央駅前でエコキャンドルを点灯

日詔十八・十九区子ども会の児童八十一人が、紫波中央駅前に手作りキャンドルの夢灯りをともしました。使用した二百四十三個のキャンドルは、紫波みらい研究所の指導で、家庭からの使用済み天ぷら油をリサイクルしたものです。父母代表の佐藤由美地区委員長は「地域貢献や環境への意識を高めるため初めて実施しました」と話していました。子ども会会長の八幡文奈さんは「上手に作れました」と満足そうでした。

彦部地区で地区創造会議が始動

地域の理想の未来像を自分たちで語り合い実現させるための地区創造会議が、彦部地区で始まりました。町が進めるこの会議は、理念、現状、素材集め、構想、計画と全五回の日程で行うもので、すでに町内四地区が、計画を実践に移して行動を開始しています。初日のこの日は会場の彦部公民館に三十八人が集まり、六つの班に分かれて、みんなが発言するワークショップ形式で理想の地域像について語り合いました。



8/5

グループごとに話し合う彦部地区の皆さん



8/10

パン生地の上に具材をトッピングする子どもたち

虹の保育園では食育パン作り

虹の保育園の年長組の子どもたちが、ピザトースト作りに挑戦しました。同保育園の栄養士と調理師が指導にあたり、あらかじめ一次発酵させたパン生地を、ソーセージやチーズ、ピーマンやタマネギなど、八種類の具材をのせて焼き上げました。うれしそうに食べていた細川柚香ちゃんは「ふわふわしておいしい」と笑顔。伊藤典子園長は「こういうことがきっかけで好き嫌いなく育てばいいですね」と話していました。

盛岡信用金庫が学童野球大会を開催

第二回盛岡信用金庫学童軟式野球大会が昨年に引き続き紫波運動公園野球場で開催され、同信用金庫の営業エリア内から、各市町村野球協会推薦の八チームが対戦し交流を深めました。この大会は、青少年の健全育成と親睦を目的に、二戸信用金庫が二十二年前から開催している大会で、昨年の合併を期に、合併前の盛岡信用金庫営業エリア（紫波、盛岡、西根、久慈）からも参戦し、当町で開催されるようになりました。



8/22

紫波町から赤石野球スポーツ少年団が出場

金山巡りコースを調査「佐比内山ひだの会」



8/23

散策コースを調査する山ひだの会の皆さん

佐比内地区の山ひだの会（会員四十五人、山下悦悦会長）は、同地区に金山・隠切支丹史跡巡りトレッキングコースを整備するため、夏場のコース状態の把握と、新たな金山史跡の発見を目的に、二十人の会員が三つのコースに分かれて調査しました。その結果、砥ヶ崎堤の東側にある謡沢（うたざわ）コースに、新たな露天掘り跡地を確認できました。山下会長は「コースを再検討し、来年にはツアーを実現させたい」と意気込んでいます。

長岡地区で総合防災訓練

町の総合防災訓練が、地元の皆さん二百人を含む約六百五十人の参加のもと、長岡小学校で開催されました。大規模災害が発生したとき、地域と防災機関が一体となって、円滑に应急活動ができるように、毎年会場を変えて開催されています。今年は天候にも恵まれ、中止する項目もなく、新たに災害対策本部現地連絡会議訓練、住宅ガス配管設備復旧訓練、放置車両撤去訓練を加えた全六十八項目の訓練が行われました。



8/23

消火訓練をする長岡地区の皆さん

片寄小児童はトマトの収穫体験



8/31

真っ赤に色づいたトマトを収穫する児童たち

片寄小学校（児童数七十九人、千田千恵子校長）の二年生十二人が、加工用トマトの収穫体験をしました。日本デルモンテと栽培契約を結ぶ越田農業生産組合の畑約十六アールで栽培されているこの加工用トマトは、太陽の光を吸収しやすいように地植えされ、赤みが濃くゼリー部分が少ないのが特徴。児童たちは「簡単に採れて楽しい」と笑顔。収穫後に紫波農業改良普及所の職員による、トマトクイズでも楽しく学びました。

スポレクフェスタ in 紫波

スポーツの秋、みんなで気持ちのいい汗を流しませ
んか。幼児から高齢者まで楽しめる城山近辺までの
ウォーキング大会や、タグラグビー交流会などのス
ポーツイベントが盛りだくさん。フリーマーケットも
開催されます。

- ◆日時 10月11日(日) 午前8時30分開会式
- ◆会場 紫波運動公園ほか
- ◆内容 ウォーキング大会、野球教室、体力テスト、
ニュースポーツ体験、テニスストラックアウトなど
- ◆問合せ 体育協会 ☎676-2650

スポレクフェスタ☆

元気はつらつ秋色ウォーク大会

- ◆日時 10月11日(日) 午前8時30分集合
(雨天中止・小雨決行)
- ◆コース 城山公園周辺約5km
- ◆集合場所 紫波運動公園
- ◆参加費 無料
- ◆持ち物 飲料水、マイカップ
- ◆申込・問合せ 10月5日まで
長寿健康課 健康推進室
☎672-4522 有線01-8991

ゴール地点に
麦茶を用意して
います。

「介護者からの短い手紙」募集

11月11日は「いい介護の日」です。介護について
理解と認識を深めてもらうため、町は「介護への想い
～介護者からの短い手紙～」と題し、介護者の皆さん
からの手記を募集します。

- ◆文字数 200字～300字程度(余白に住所・氏名・
連絡先を記載のこと)

- ◆応募方法 10月9日(金)までに郵便またはファク
スで ※寄せられた手記は氏名などを伏せて冊子に
し、手記を提出された人に配布するほか、一部公表
することがあります。

- ◆応募先・問合せ 〒028-3305 紫波町日詰字東裏
85番地1 長寿健康課 高齢者支援室
☎672-4522 FAX 672-4349

ラ・フランス温泉館 YOGAイベントの ご案内

つるつる美人の湯 温泉 健康ヘルシーランチ そしてヨガでリフレッシュ!!

9/17(木) ヨガ初心者の方大歓迎!!

- 講師 NPO法人 日本YOGA連盟
岩手支部長 橋本先生
- 場 所 奥広間(けやき、つばめ、ききょう)
- 参加費/お一人様 2,000円
- 定員数/20名様
- 参加方法/電話にて申込みください
- ※ヨガマットはご持参ください
(お持ちでない場合は厚手のバスタオル)
- ☎019-673-8555
- FAX 019-673-8556 E-mail: yoyaku@lafrance.co.jp
URL: http://www.lafrance.co.jp/



〒028-3444 岩手県紫波郡紫波町小戸新在家90番地

9月「紫波自釀ワインを楽しむ会」

紫波自釀ワインとビザなどのワインにぴったりなお料理
で気の合う仲間と楽しいひとときを過ごしませんか?
当日は定番商品に加え、9月18日発売開始の新商品「メル
ロー樽熟成」もお楽しみいただけます。メルロー樽熟成は、メル
ローをフランス産オーク樽で8ヶ月間熟成させた柔ら
かな飲みと樽の風味のバランスが良い辛口赤ワインです。

9月18日(金) 場所/KAUKAU(ココ)
午後6時30分～8時30分

会費4,000円(先着20名様限定 前売制)
紫波自釀ワインクラブ会員は3,500円 会員随時
募集中

(株)紫波フルーツパーク(紫波町第三セクター)
☎019-676-5301 URL http://www.shiwa-fruitspark.co.jp/



メルロー樽熟成2007 750ml
生産本数1,472本

チケット取扱店
紫波フルーツパーク
紫あ波せ本舗・KAUKAU

紫波町に定住・移住をお考えの皆さんへ 分譲販売中 新築住宅

宅地 北日詰
古館NT内 13区画 北日詰
北日詰大日堂 7区画 大日堂内
二日町北七久保 2区画 1棟 H21.9完成予定

不動産の売買・仲介、自社開発宅地・建物分譲
(社)全日本不動産協会 東北地区不動産公正取引協議会会員
岩手県知事免許(1)2255号

ウエノ不動産管理(有)
☎671-2072 FAX 671-2073
日詰字下丸森9-4(養老乃瀧 紫波町店となり)

最新情報はホームページ「ウエノ不動産管理」検索

中古住宅 1,000万円
延べ床面積 91.08㎡
27.55坪
土地面積 201.75㎡
61.02坪

- 所在地/紫波町中島字前柳
- 交通/JR古館駅徒歩5分
- 建物構造/木造2階建 ●引渡し/即
- 建築年月/昭和54年5月 ●取引形態/仲介
- 6m南面道路、日当良好、大型車庫・物置
- H14年内・外リフォーム、H20屋根塗装済み

広告有効期限/平成21年9月30日

《ホテル・ブライダル科》カフェ・スイーツコース実習授業体験(体験入学)

9/20(日) ローズマリーのフォカッチャ&
なめらかプリンにチャレンジ
午前部 10:00～12:00 [9:30～受付]
午後部 13:30～15:30 [13:00～受付]

10/11(日) ミニケーキデコレーション体験
午前部 10:00～12:00 [9:30～受付]

[対象] 高校3年生(希望によりその保護者)
[内容] カフェ・スイーツコースの教育方針・特色、講師、特待生・
入試、学費、就職支援などの説明、実習授業体験
※希望者には個別相談・寮見学



実習授業講師: 千葉星子

厚生労働省職業能力開発局「YES-プログラム」認定講座実施校
自由が丘産能短期大学単位認定校 岩手県認可

盛岡カレッジ オフ ビジネス
〒020-0025 盛岡市大沢川原3-1-18 TEL 019-651-5001 FAX 019-651-5015

☎電話でお申込
■メールでお申込
navi@moricolle.ac.jp
■ホームページからお申込
http://www.moricolle.ac.jp



Information

紫波町ポータルサイト <http://www.town.shiwa.iwate.jp/> 問合せ／紫波町(代表) ☎ 672-2111

市民参加

水道ビジョン検討委員会を公開します

水道事業所では、町の皆さんに一層満足してもらえ水道サービスを提供するために、町の水道事業の現状と課題を明らかにし、それに対処するための具体的な目標と整備内容を示す「紫波町水道ビジョン」を本年度中に作成します。

これに伴う第2回検討委員会の会議を公開しますので、傍聴希望の人は、申し込みの上お出かけください。

- ◆日 時 9月29日(火) 午後2時～
- ◆会 場 第二庁舎 2階会議室
- ◆内 容 水道事業の現状と課題など
- ◆定 員 先着10人(定員以内であれば当日でも可)
- ◆申込・問合せ 水道事業所 ☎672-6891 FAX676-6440

✉ suido@town.shiwa.iwate.jp

- 水道ビジョン検討委員会の会議録と今後の会議日程
<http://office.town.shiwa.iwate.jp/kakuka/frame01.asp> (役場ホームページ→各課より→水道事業所)

消防団員の入団向上に意見を募集

消防団は「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づいて、消火・防災活動はもとより、平常時の啓発活動など幅広い分野で地域防災の要として重要な役割を果たしています。しかし、社会環境の変化などに伴い、団員数の減少や会社員の団員増による日中の空洞化などのさまざまな課題に直面しています。

現在、定員604人に対し89%の充足率です。消防団員の入団向上に効果的なご意見をお寄せください。

年 度	H16	H17	H18	H19	H20	H21
団員数(人)	555	545	529	546	546	541
前年比(人)	4	△10	△16	17	0	△5

(定員604人 実人数541人中、役場職員は16人入団)

◆送付先・問合せ

〒028-3392 紫波町役場 総務課 消防防災室
☎672-2111 内線3133 FAX672-2311
✉ soumu@town.shiwa.iwate.jp

第27回 野村記念講座

- ◆日 時 10月11日(日) 午後1時30分～
- ◆内 容 講演「古典文学を愉しむ」◇講師：林望氏
コンサート ◇曲：モルターリ「食いしん坊」、ショパン「ノクターンハ短調作品48-1」、宮城道雄「水の変態」ほか ◇出演：嶺貞子(ソプラノ)、林望(バリトン)、安藤政輝(箏)、安藤珠希(箏)、有森博(ピアノ)、五味こすえ(ピアノ)
- ◆入場整理券 9月11日から、同記念館(電話申込可)、役場、中央公民館、ナックスで配布
- ◆問合せ 野村胡堂あらえびす記念館 ☎676-6896

動物と共生する森を創ろう！

クマが餌を求めて里に来ないように、実のなる木を植えます。森林の役割を知る機会にいかが。

- ◆日 時 10月11日(日) 午前8時～午後2時
- ◆集合場所 サンビレッジ紫波
- ◆場 所 山王海 平成の森
- ◆内 容 自然観察会、植樹、どんぐりの苗木作り
- ◆費 用 参加費無料 ◆定 員 100人
- ◆持 ち 物 おにぎり、雨具、長靴、軍手、帽子、どんぐり
- ◆申込・問合せ 9月25日(金)まで
NPO法人紫波みらい研究所 ☎671-2244

中央葬祭センター「シンセラホール紫波」

「しらゆり会員」募集中

- *会員皆様 紫波・矢巾どちらでもご利用できます。
- *JA組合員・しらゆり会員に限らず、施設のご利用ができます。

中央葬祭センター
「シンセラホール紫波」
岩手県紫波郡紫波町桜町字上野沢278
☎676-7676 FAX676-4404



「ペットの葬儀やさん」

最愛のペットにやすらぎの贈り物をいたします

ご希望により「もも子」の眠る
蟠龍寺動物慰霊碑に納骨も
できます。(詳しくはお問合わせください)

新しい紫波町の火葬場
「かたくりの丘」は
動物専用炉を備えています

(株)高幸

桜町字中屋敷5-3
☎ 676-4560
FAX 672-3535



親子ふれあい研修 山王海ダムと親しむ湖水フォーラム

船に乗って湖面からダム全体を観察し、ダムの歴史や文化、そして環境について学習します。

- ◆日 時 9月27日(日)
午前9時30分～午後3時30分
- ◆集合場所 山王海改良区(バスで移動)
- ◆内 容 ごんべえ丸船上研修/ゴムボート船上研修/
施設見学/イワナ・ヤマメの稚魚放流など
- ◆募集人数 子ども36人(保護者1人以上同伴)
- ◆持 ち 物 弁当、飲み物、雨具
- ◆申込期間 9月16日(水)～24日(木)
- ◆申込・問合せ 水土里ネット山王海
(山王海改良区内) ☎673-7311

名木・巨木ツアー 定員20人

町の名木・巨木を樹木医と一緒に巡ります。

- ◆日 時 9月27日(日) 午前8時45分～午後3時
- ◆集合場所 JR紫波中央駅 午前8時30分
(車で来る人は、無料駐車場を案内します)
- ◆コ ー ス 隠里寺 → 願円寺 → 志和稻荷神社 →
光円寺 → 志賀理和気神社 → 道の駅あ
かさわ → 八坂神社 → 木の宮神社 → 走
湯神社 → 勝源院
- ◆講 師 ㈱日本緑化センター 樹木医 高村尚武氏
- ◆費 用 参加無料(昼食持参または道の駅果りん亭利用)
- ◆申込・問合せ 9月18日(金)まで 紫波町環境・循
環PRセンター内「森和会(森林ボランティア団体)」
☎671-2245 FAX 671-2243

第8回 であい・ふれあい・めぐりあい

男女の出会いを支援する「ふれあいパーティー」が開催されます。

- ◆日 時 10月4日(日) 午後5時～8時

- ◆会 場 紫波グリーンホテル
- ◆参加料 2,500円(女性2人以上で参加は1人2,000円)
- ◆対 象 結婚を希望する独身男女
- ◆申込・問合せ 紫波町商工会女性部 ☎672-2244

オータムJAZZ 第3回 コンサート in 紫波 ビューガーデン

県内はもとより東京、大阪、札幌、仙台などからプロ・アマ13バンドが集結、魅力溢れる演奏・ボーカルを披露します。さわやかな秋空の下、6時間に及ぶジャズの祭典をごゆっくりお楽しみください。

2009.9/20(日)雨天決行

11:00～17:00 会場/ビューガーデン芝生広場
大人¥3,000(お茶、ランチ) ☆駐車場完備(300台)
小学生¥1,800(ボックス付) ☆屋台(アルコール販売あり)
※当日券は同料金ですが、ランチボックスはつきません。

企画/開運橋のジョニー 主催/第3回オータムジャズコンサート実行委員会 問合せ/ビューガーデン ☎673-7882
チケット取扱店 ラ・フランス温泉館、あつまね産直、野村胡堂あらえびす記念館、紫波農園、志和古稲荷神社、東北ターボ工業、たまご家、アプローチャ社、紫波衛生社、権三はーる、共同園芸、ビューガーデン、盛岡/開運橋のジョニー、大通り佐々木電気

紫波中央駅発着
シャトルバス運行

日詰幼稚園

★2010年度園児募集要項の配布[10月1日～]
直接園までお越しください、電話でご請求ください。

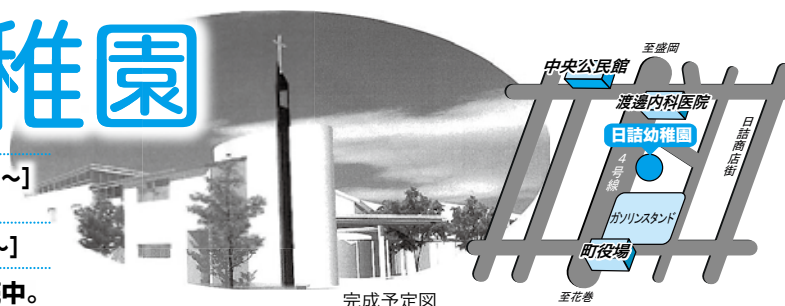
★日詰幼稚園見学説明会[10月15日 10:00～]

★認定こども園、保育園(0～2歳児)認可手続中。

★認定こども園開園予定2010年4月

問合せ

紫波町日詰字下丸森130 ☎019-672-2542



完成予定図

至花巻

Information

紫波町ポータルサイト <http://www.town.shiwa.iwate.jp/> 問合せ／紫波町(代表) ☎ 672-2111

後期スポーツ教室 9月28日(月)受付開始

受講希望者は申し込みの後に会員登録が必要です。

◆**会員登録料** 幼児無料／小中学生800円／高校生以上1,300円／60歳以上1,000円

ちびっこ スポーツ 教室	幼児が身につけるべき基本動作の習得を親子で目指します。 ◆定員 20組(2歳以上の幼児と親) ◆参加料 2,000円 (子ども2人目から500円増) ◆期間 11月13日～3月26日 (毎月第2・4金曜・全10回) 午前10時～11時30分
なぎなた 教室	なぎなたの基本技術だけでなく、礼儀作法を学ぶことができます。 ◆定員 20人(小学生以上の男女) ◆参加料 16歳以上1,000円 小中学生 500円 ◆期間 10月17日～12月5日 (毎週土曜日・全8回) 午後4時～6時
ヨガ 教室	ホームヨガの基本を習います。心と体の健康、ストレスと運動不足解消にいかがですか。 ◆定員 25人(一般成人男女) ◆参加料 1,500円 ◆期間 11月7日～1月23日 (毎週土曜日・全10回) (12/26、1/2休講) 午前10時～11時30分

◆**申込・問合せ** 体育協会 ☎676-2650
有線01-3163

女性特有のがん検診 (子宮頸がん検診・乳がん検診)

無料で子宮頸がん検診・乳がん検診を受診することができます。対象者には、無料クーポン券とがん検診手帳を郵送しています。がん検診手帳を読み、無料クーポン券を利用して受診してください。

国の平成21年度補正予算によって、日本のがん検診受診率50%を目標に女性特有のがん対策が講じられることになりました。

○**クーポン券発送対象者** 平成21年6月30日現在、町に住民登録している下記の生年月日に該当する女性

子宮頸がん検診	子宮頸がん検診・乳がん検診
S63.4.2～H元.4.1生	S43.4.2～S44.4.1生
S58.4.2～S59.4.1生	S38.4.2～S39.4.1生
S53.4.2～S54.4.1生	S33.4.2～S34.4.1生
S48.4.2～S49.4.1生	S28.4.2～S29.4.1生
	S23.4.2～S24.4.1生

○**転入された人** 平成21年7月1日以降、町に転入し住民登録した人は連絡をください。

◆**問合せ** 長寿健康課 健康推進室 ☎672-4522
有線01-8991



お客様の身体や心の特徴をふまえ、
安心・快適・満足を与えられる
ハートフル美容師がいるお店

**全フロア、バリアフリーで
お待ちしております。**

Salon de Passe
サロンド・パッセ

メニュー
カット(1S・B込) 2,200円～
パーマ(S・C・B込) 3,980円～
カラー(リタッチ) 2,980円～
着付(一般) 6,000円～

【営業時間】8:00～18:00(受付17:00まで)
【定休日】月曜日 【駐車場】10台 ★予約優先

日詰西6丁目1-8 ☎(672)2700

○早朝予約 ○着付予約 ○出張サービス 携帯090-8922-8795

スタッフ募集

もくじ

2009年9月
しわネット No.775

まちづくり座談会 みんなで創る町の総合計画	02
紫波夏まつり すてきな夏をありがとう	10
出会いがいっぱい! 紫波の夏	12
環のくに紫波「こども夏エコ祭で楽しく環境学習」	14
元気はつらつ健康メモ「新型インフルエンザ」緊急告知!	
紫波町新型インフルエンザ対策警戒本部長(町長)コメント	16
食育講座 恵みとメグミの出前キッチン	17
しゃ・べーると町歩き「水分神社と西部交流エリア」	24

3,000円コースの一例

- 季節の小鉢
- 土瓶蒸し
- 焼物
- 酢の物
- 刺身
- 寿司
- 香の物
- いもの子汁

秋の味覚を
おもてなし

味覚の秋と呼ばれる
この時期は
風味豊かな食材が
たくさん出ています。
そんな秋の味覚を
盛り込んだコースを
御用意しました。

天狗寿司

日詰字東裏5 ☎(676)2651
駐車場8台完備

募集中 調理師または調理見習い
(1名) やる気のある人、元氣のある人
まっています!!

ランチタイム好評営業中 11:30～14:00
すしランチ1,000円・海鮮丼800円(その他全6種類)
当店オリジナル すしビビンバ 890円 サラダ・小鉢付

水分神社と西部交流エリア

●シリーズ
行ってみよう!

ボランティア
ガイド

しゃ・べーると

町歩き



町指定天然記念物の杉群に囲まれた水分神社



- 1 体験農場がある紫波農園
- 2 浅沼養鶏場の直売所「たまご家」
- 3 水分神社の水くみ場

水の神様をまつるこの神社は、今から約三百八十年も昔、用水繁盛を祈願して社を建立したと、約二百五十年前の代官所調に存してある棟札に記されています。昭和三十七年、西部広域簡易水道水源を造るため、町と貸借関係が結ばれ、ここからわ

き出る水は、ミネラルをたくさん含み、軟水でもおいしいと好評です。休日には遠方からも水を求めて列ができるほどです。

秀峰東根山のもとに、町の天然記念物に指定されている杉の群生に囲まれた、水分神社がたたずんでいます。

案内役は、観光ボランティアガイド「しゃ・べーる」の久慈和子さんです。

次に西部交流エリアをご案内します。神社の帰り道、坂道を下ると、町全体を見渡せる「ビューガーデン（地図①）」があります。向かい側には、果物の摘み取り体験ができる、今年

き出る水は、町水道の水源として、多くの家庭に供給されているほか、ペットボトル飲用水「みくまりの水」として、緊急用に備蓄されています。



ビューガーデンを案内する久慈和子さん

これから実りの秋を迎え、遠くに北上高地の山並みを望み、一面金色の稲穂を見渡すことのできるこのエリアに足を運んでみてはいかがでしょうか。

オープンしたばかりの「紫波農園②」。その南に目をやると、高いところに（有）浅沼養鶏場が今年オープンした「たまご家③」が見えます。そして「ラ・フランス温泉館④」があり、南隣りに「あづまね温泉ききょう荘⑤」「あづまね産直⑥」が続き、南側には「上松本洋梨農業生産協同組合⑦」の洋ナシ畑が見えます。もう少し南に行くと、現在も住居として使われている南部曲り家「武田家住宅⑧」、隣りに「陶房金沢⑨」があります。さらに南には「志和古稲荷神社⑩」と「志和稲荷神社⑪」があります。このエリアには、自然ばかりでなく立ち寄りたいスポットがいっぱいですね。

